

〈はじめに〉

『文化と生物学』編集部一同

ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』Vol.3を刊行しました。今回の特集テーマは「宗教」と「シャコ」です。「宗教」と聞くと、少し身構えてしまう方も多いかもしれません。私たちは特定の「宗教」を推奨したり提言したりするものではなく、「宗教」という存在がどのように人という生き物の社会の中で生まれてきたのかを見つめ直したいと考えました。また「シャコ」に対しても、その見た目に抵抗を感じる方がいるかもしれません。私たちは、近年その姿を見る機会が少なくなった「シャコ」の魅力や、「シャコ」を通して広がる想像力の可能性について探ることにしました。

まず「宗教」とは何かを知るために、宗教認知科学を専門とする藤井修平さんに「宗教」の定義について伺いました。そして「シャコ」については、日本でも数少ない専門家である横須賀市自然・人文博物館の中島広喜さんに、その知られざる生態についてレクチャーをしていただきました。このふたつのテーマをつなぐ特集として、今回私たちは「シャコ」をモチーフにした木魚を制作しました。制作にあたっては、工学部に在籍しながらデザイナーとしても活躍する安村俊介さん、そして「木魚の音」というユニークな研究をしている、音響工学の専門家である春原政浩さんに協力いただきました。さらに、食から「シャコ」の魅力を知るため、フードデザイナーの中山晴奈さんとともに、郷土料理「品川めし」のレシピ作成にも挑戦しました。そして、「シャコ」が祀られる世界を描いたショートショートを、コントユニット・テニスコートのメンバーで、作家としても活躍する神谷圭介さんに書き下ろしていただきました。

連載企画では、プラクショナー・コレクティブ「コ本や」によるブックガイド、批評家の森脇透青さんの寄稿、『文化と生物学』編集部・切江によるチューリップ考、飯沢によるコンビニ学、そしてイグ・ノーベル賞日本担当ディレクターの古澤輝由さんによるプレイリストを掲載しています。また新連載として、バイオ企業で食品などの開発に携わる醸造家の柳町みゆきさんによるビールエッセイがスタートしました。加えて、伊藤ガビンさんに、生物学的視点から「老い」について考えるエッセイを執筆いただきました。また映画監督の坂本麻人さんにもご寄稿いただきました。来春公開予定のドキュメンタリー映画『サクラマスのラストワルツ』の制作を通じて考察された、「サクラマス」の生と死についての思索です。さらに、昨年 YCAM で開催された『夏のヘウレーカ!』（『文化と生物学』も参加）および、編集部・服部が代官山ティーンズ・クリエイティブで開催した『ネコ図鑑ワークショップ』のレポートもご紹介しています。

最後に、本号の制作にご協力いただいた皆さま、アドバイザーである岩崎秀雄さん、伊勢武史さん、そして梶山寛さんに、心より感謝申し上げます。

「宗教」や「シャコ」といった、言葉で聞くだけでは少し距離を感じるかもしれないテーマを、私たちなりに真摯に取り上げました。ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』を通して、これまで知らなかった知識や発見に出会っていただけたら幸いです。